

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】平成 28 年 2 月 18 日 (2016.2.18)

【公開番号】特開 2014-116148 (P2014-116148A)

【公開日】平成 26 年 6 月 26 日 (2014.6.26)

【年通号数】公開・登録公報 2014-033

【出願番号】特願 2012-268447 (P2012-268447)

【国際特許分類】

F 2 1 K 9/00 (2016.01)

F 2 1 S 2/00 (2016.01)

F 2 1 Y 115/10 (2016.01)

【F I】

F 2 1 S 2/00 2 1 4

F 2 1 Y 101:02

【手続補正書】

【提出日】平成 27 年 12 月 4 日 (2015.12.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

LED 素子が実装された LED 基板と、
前記 LED 基板が一端に配置され、内部に空間を有する筒状の放熱部材と、
前記 LED 基板を覆う透光性カバーと、
前記 LED 基板に給電する点灯回路基板と、
前記点灯回路基板を収納しかつ前記放熱部材の空間内に配され、前記放熱部材から突出する突出筒部を有する絶縁筐体と、
環状に形成されて中心付近が開口されて当該開口内に前記絶縁筐体の突出筒部が位置し、前記放熱部材の前記 LED 基板が載置された一端と反対側の他端を前記絶縁筐体とで挟持して前記放熱部材を固定する環状挟持部材と、
前記絶縁筐体の突出筒部の一端側に取付けられた口金部材と、
 を備える LED ランプ。

【請求項 2】

前記放熱部材は他端にて内側に突出して形成された底壁を有し、
前記絶縁筐体は前記放熱部材の空間に配された状態で当該放熱部材の底壁に当接する当接部を有し、前記突出筒部が外周面に形成されたネジ部を含み、
前記環状挟持部材は内周面にネジ部を有し、
前記絶縁筐体の突出筒部のネジ部と前記環状挟持部材のネジ部とが螺合されて前記絶縁筐体の当接部と前記環状挟持部材とで前記放熱部材が挟持されて固定される、請求項 1 に記載の LED ランプ。

【請求項 3】

前記環状挟持部材と前記口金部材が離間して位置する、請求項 1 又は 2 に記載の LED ランプ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明に係るLEDランプは、LED素子が実装されたLED基板と、LED基板が一端に配置され、内部に空間を有する筒状の放熱部材と、LED基板を覆う透光性カバーと、LED基板に給電する点灯回路基板と、点灯回路基板を収納しかつ放熱部材の空間内に配され、放熱部材から突出する突出筒部を有する絶縁筐体と、環状に形成されて中心付近が開口されて当該開口内に絶縁筐体の突出筒部が位置し、放熱部材の前記LED基板が載置された一端と反対側の他端を前記絶縁筐体とで挟持して前記放熱部材を固定する環状挟持部材と、絶縁筐体の突出筒部の一端側に取付けられた口金部材と、を備える。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

また、放熱部材は他端にて内側に突出して形成された底壁を有し、絶縁筐体は前記放熱部材の空間に配された状態で当該放熱部材の底壁に当接する当接部を有し、突出筒部が外周面に形成されたネジ部を含み、環状挟持部材は内周面にネジ部を有し、前記絶縁筐体の突出筒部のネジ部と前記環状挟持部材のネジ部とが螺合されて前記絶縁筐体の当接部と前記環状挟持部材とで前記放熱部材が挟持されて固定されてもよい。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

さらに、前記環状挟持部材と前記口金部材が離間して位置してもよい。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

本発明によれば、放熱部材と絶縁筐体を一体に組立てる際に、口金部材とは異なる環状挟持部材を使用するので、口金部材を除いて組立てても、分離することなく一体で安定した状態となっており、次工程以降の組立てがし易く尚且つ、前記環状挟持部材と前記口金部材は独立しているので、口金部材に前記放熱部材を挟持するための機械的負荷がかからない。これにより、口金部材の、この負荷による歪みをなくすことができ、歪みによる給電線の接合部への影響を排除して長期に亘り安定した給電が行えるLEDランプを提供す

ることができる。